

Intravitreal anti-vascular endothelial growth factor treatment for inflammatory choroidal neovascularization in non-infectious uveitis.

Woronkowicz M, Niederer R, Lightman S, Tomkins-Netzer O.

Am J Ophthalmol. 2021 Jul 18:S0002-9394(21)00376-7.

PMID: 34289337

doi: 10.1016/j.ajo.2021.07.010. Online ahead of print.

非感染性ぶどう膜炎患者の黄斑に炎症性の脈絡膜新生血管(CNV)が生じると視力予後不良の大きな要因となります。本研究では 166 例 204 眼の非感染性の炎症性 CNV を生じた症例を後ろ向きに観察しました(平均観察期間 6.9 年)。抗 VEGF 治療を first-line で行った症例では最高矯正視力(BCVA)が改善しましたが(治療前 BCVA=0.43,最終受診時 BCVA=0.56)、それ以外では、視力の改善は得られませんでした。また、CNV の再発においては副腎皮質ステロイド薬の内服もしくは抗 VEGF 硝子体注射によって有意に抑制されました(補正ハザード比:それぞれ、0.32、0.31)。

日本では炎症性の CNV に対しての使用に関して保険収載がされていませんが、本研究では他の CNV と同様に、抗 VEGF 硝子体注射の有効性が示されました。炎症性 CNV は視力予後に大きく影響するため、日本での炎症性 CNV に対する抗 VEGF 硝子体注射の適応拡大が望まれます。

(担当者: 横浜市大 竹内 正樹)